
香取市合併 20 周年記念作文コンクール

「香取市の未来」入賞者一覧

香取市合併20周年という大きな節目に、
次世代を担う子どもたちの郷土への想いを形に残すため、
作文コンクールを実施しました。

「20 年後の香取市」や「自分自身の夢」をテーマに寄せられた作品は、
総数 347 点。

本誌では、その中から選ばれた入選作品を掲載しました。
子どもたちの目線で語られる、未来への希望が詰まった作品を紹介します。

【最優秀賞】

『未来へ！香取を結ぶ』
小見川中央小学校 5年 高橋 結乃

【優秀賞】

『だいすきなまち』
佐原小学校 1年 柳原 乙葉

『み力ある香取市』
東大戸小学校 4年 朝倉 彩巴

『ぼくがねがう香取市の未来』
竟成小学校 5年 宮崎 蒼汰

【佳作】

『ぼくの大すきなまち』
山田小学校 1年 常世田 絢心

『香取市の未来にのこしたいもの』
北佐原小学校 4年 平野 雄樹

『私の大好きな香取市』
東大戸小学校 5年 中井 愛絢

『香取市の未来について』
栗源小学校 5年 間立 紘生

最優秀賞

未来へ！ 香取を結ぶ

小見川中央小学校 5年 高橋 結乃

わたしは香取市でくらしていますが、今、香取市は合ぺいしてから二十年という大きな節目をむかえています。二十年という時間は、わたしの二倍の長さです。でもそれ以上に香取市の歴史や自然、そして人のつながりは、もっともっと長く、深く、この町に流れています。

香取市には、自まんできる場所がたくさんあります。まず思い出すのは、佐原の町なみです。歴史を感じさせる小野川のほとりには昔の建物が立ちならび、まるで江戸時代にタイムスリップしたような気持ちになります。

もうひとつの自まんは、香取神宮です。木々にかこまれた参道はしんとしていて、歩くだけで心がスーッとします。お正月のおまいりや七五三など、わたしの家族の思い出がいっぱいつまった場所です。日本中から人が来てくれる、大切な香取市の顔です。

わたしの家では、毎日のごはんに香取のお米を食べています。田んぼが広がる風景を見ながら学校へ行くと、四季のうつりかわりを感じることができます。春にはあやめがさいて、夏にはセミの声、秋は金色の田んぼ、冬はカモの群れ。そんな自然がすぐそこにある香取市がわたしは大好きです。

けれど、香取市には、いくつかの課題もあります。人口が少なくなっていること、お店がへっていること、若い人たちが町を出て

いってしまったり保育園や学校もへってきているそうです。「このままだと、毎年楽しみにしているお祭りなどのイベントも少なくなってしまうかもしれない」とわたしは少し心配になりました。

でも、わたしの名前にある「結(むすぶ)」という字には、「人と人、心と心を結ぶやさしい人になってほしい」という、お父さんとお母さんのねがいがこめられています。そんなふうに人と人をつなぐ気持ちがあれば、町も元気になれるんじゃないかと思います。

わたしは、未来の香取市をもっと明るくしたいです。たとえば、子どもがあそべる公園や、いろんな世代が集まれるイベントがふえたらいいなと思います。町のみ力をSNSなどで発信していきながら香取市の良さをもっと多くの人に知ってもらえたら新しい風がふいてくると思います。観光に来た人や引っこしてしてきた人が「香取に来て良かった」と思ってくれたらとてもうれしいです。そんな香取市の未来をわたしは思いえがいています。

二十年後、わたしは三十才になっています。今よりももっとにぎやかであたたかい町になった香取市で子育てをしているかもしれません。わたしは、「結」の名前のように、人と人、町と町、そして未来と今を結んでいけるような人になりたいです。香取市がこれからの二十年先も笑顔とやさしさにあふれた町であるように、自分の手で少しでも関わられたらいいなと思っています。

優 秀 賞

だいすきなまち

佐原小学校 一ねん やなぎはら おとは

わたしは、かとりしに生まれてよかったとおもいました。なぜならたくさんのしぜんや川があって、むかしのまちなみがおおくのこってまつりなどのきせつのぎょうじがあるからです。

たべものもおいしいものがおおくて、とくにかとりしのやさいはおいしいです。わたしはオクラとトマトが大すきなのですが、たべるととてもげんきがでます。

このげんきがでるやさいをたくさんの人にたべてほしいです。

二十ねんごはわたしも二十七さいになっておとなになっていきます。はんざいやこうつうじこのない、あんしんできるまちになってほしいです。あとはこどもたちがいまよりも、もっとたのしくあそべるこうえんがほしいです。みんながわらってたのしいまちになってほしいとねがっています。

優 秀 賞

み力ある香取市

東大戸小学校 四年 朝倉 彩巴

今年の夏休みに伊能忠敬記念館へ行き、伊能忠敬について学びました。実際に昔の方法で測量する体験をしてみて、改めてすごさを実感し、そんな日本の人が香取市にいたんだと思ってほこらしく思いました。

記念館がある小野川ぞいの町なみは、れきしを感じることができ、なれ親しんでいる風景でもあるので、見ると安心することができ、私の大好きな場所です。

そして、香取市と言えば、全国から見物客がおとずれる佐原の大祭。山車も大きくてすごいです。私は、おはやしを聞くと自然とおどりたくなってしまうくらい大好きです。私の住む地区はお祭りの地区外ですが、お母さんが子どものころは、運動会で全校生徒が佐原ばやしをおどっていたそうです。私もおどりたいと思いました。

自まんの名産物もたくさんあります。お米やサツマイモはもちろん、マッシュルームは日本一をほこります。給食では香取市産のおいしい物を食べることができるので、何が出るか、毎日の楽しみです。

私の家の部屋からは、利根川までずっと続く田園風景と、遠くにつくば山が見えます。

田植えが始まる春には、土のにおい。いねが大きくなり、風でゆれる夏にはカエルの大合唱。黄金色にかがやくいなほになる秋は、もみのにおいの中、バッタが飛び回っています。冬は少しさみしく、つくば山からふく北風がほほをさして痛いくらいです。

このように、田んぼのにおいや風景で四季を感じることが出来ます。

こんなみ力たっぷりの香取市が私は大好きです。これからもずっとこの自然や伝とうを守っていきたいし、全国の人々に香取市の素晴らしさを伝え広めていきたいです。また、香取市のみ力をこれからもっとたくさん見つけ、ふるさとを大事にしていきたいです。

優 秀 賞

ぼくがねがう香取市の未来

竟成小学校 五年 宮崎 そうた

二十年後、ぼくは三十一才の大人になっています。そのころの香取市は、どんな町になっているのでしょうか。未来にはロボットや空を飛ぶ車が行き交い、とても便利になっていることでしょう。でも、ぼくは香取市にはあまり変わらないでいてほしいと思います。なぜなら、大事な思い出がたくさんあるからです。

春になると、おじいちゃんとお父さんといっしょに米作りのために種まきをします。といっても手でまくわけではありません。種まき機を使います。箱がベルトにのって流れていき、土や種や水が順番にかかって、あっという間にできます。まき終わった箱がハウスいっぱいになると、すごい量だなとわくわくします。おじいちゃんが、「これがお米に育っていくんだよ。」と話してくれました。

芽がのびてくると田植えをします。田植え機に乗せてもらって後ろを見ると、なえがまっすぐに植えられていきました。「わあ、まっすぐだ、すごい。」と思いました。

秋になると、いよいよいねかりです。コンバインが田んぼの中を走ると、金色のいねがなみのように動き、どんどんかられていきます。次々とお米がふくろに入っていく様子を見ると感動します。

「速い。米だ、米だ。」と何回見ても思います。びっしりとつまったふくろが積まれると、「これで、いっぱいごはんが食べられる。」とこうふんします。

ぼくの家近くには川があり、そこでは、友達といっしょにザリガニつりをします。するめをひもにつけて川に入れると、ザリガニがはさみを動かしながら出てきます。「うまくはさめよ。」とときどきしながら待ちます。上手につり上げられた時は、「やったあ。」と大よろこびです。川にはメダカも泳いでいます。むれで行動している様子はとてもかわいいです。他にはサワガニもいます。小さいカニなので見つけるのもつかまえるのもむずかしいです。「いたあ。」と大きな声を上げて手でつかまえようとすると、カニはす早くにげてしまいます。これまでも、何度もにげられてくやしい思いをしています。やっとつかまえることができると大よろこびです。

佐原の大祭も、ぼくの大事な思い出です。たいこやふえのおはやしがひびき、大きな人形がのった山車が町の中を進む様子にわくわくします。金魚すくいや射的などのお店もならび、そこで遊ぶのもたのしみです。

未来の香取市には、新しい物や便利な物がたくさんできるでしょう。町の様子も変わっていつてしまうかもしれません。でも、おじいちゃんの田んぼや、ザリガニやメダカとふれ合える川、みんなが楽しめる祭は、変わらないでいてほしいです。ぼくが大人になっても、春には種まきや田植え、秋にはいねかりをする生活をくり返していける、自然がゆたかな香取市であるようにねがっています。

佳 作

ぼくの大すきなまち

山田小学校 一年 ところよだ けんしん

ぼくは、みどりがいっぱいこのまちが大すきです。おじいちゃんの家では、いろいろなやさいをそだてています。にわには、レモンやうめ、ブルーベリー、かきの木があって、みんなでとるのがたのしいです。はるには、たけのこもほります。なつは、ホテルがみられます。田んぼのまわりでは、ザリガニやドジョウをつかまえられる。二十年ご、もしぼくがおとうさんになっていたら、ぼくも子どもといっしょにしぜんの中でたくさんあそんだり、たべものをとったりしたいです。

七月には、おまつりがあります。ぼくもお父さんみたいに、おみこしをかついだり、ふえをふいたりしてみたいです。人がへってきて、おみこしをかつぐのがたいへんだときいたので、ぼくもおにいちゃんやおとうととさんかして、おまつりをつづけていけるようにしたいです。

香取市の未来にのこしたいもの

北佐原小学校 四年 平野 雄樹

ぼくの家では、お米を作っています。家で作っているお米は、ふっくらしてお米の味がしっかりあって、お米だけで食べてもとてもおいしいです。家族といっしょにぼくもいねかりを手伝っているので、がんばって作ったお米はやっぱりおいしいなと思います。特に、新米がおいしいのでたくさんの人に食べてほしいです。しょう来、ぼくが大きくなったら、お米を一から全部作ってみたいです。家族みんなで協力しながら、おいしいお米をいつまでものこしていきたいです。ぼくの家の中には田んぼがたくさんあります。田植えをしてだんだんいねが生長してくると青々としたきれいな緑が、いねかりの季節には、いなほの黄金色が辺り一面に広がります。また、夏になると毎ばんのようにかえるの合唱が聞こえてきます。聞いていると落ち着く感じがして良くねむれます。ぼくは、お米がおいしくて、田んぼが辺り一面に広がって空気がおいしいこの香取市が大好きです。

ぼくには、香取市でもう一つ大好きなものがあります。それは、「佐原の大祭」です。佐原ばやしを聞きながら、出店をまわったり、佐原の小江戸のまちなみを散歩したりすることがとても楽しいです。佐原ばやし聞こえてくると、「山車が近づいてきた！」とわくわくします。「佐原の大祭」の山車は、大きくてはく力があり、とてもかっこいいです。この祭りの名物「のの字まわし」は、

男性が力を合わせて山車をのの字にたくさんまわすという、とてもはく力のあるもので、思わず見入ってしまいます。地区によって山車に乗っている人形がちがうので、それを見ながら歩くのも楽しいです。

ぼくは、香取市で大好きなものがこれからもずっとのこっていてほしいです。このままずっと自然があふれていて、お米がおいしく、楽しいお祭りがある香取市がいいです。

佳 作

私の大好きな香取市

東大戸小学校 五年 中井 愛絢

私は今、十才です。まだまだ香取市合併二十周年の半分です。ずっと香取市で育って、自然や人々の優しさ、文化などたくさん良い所がある香取市が大好きです。

昨年の夏、私は佐原の大祭で迷子になってしまいました。とても不安がいっぱい涙が出てしまいました。そこにお祭りの山車をひいていた、お兄さんがお祭りから抜けだして、私に声をかけてくれました。しばらくの間、なぐさめてくれ、私の話を聞いてくれました。そしてお兄さんは遠くにある移動交番に連れていってくれました。交番につくと、にこっと笑ってまた町内の山車にもどっていきました。とても優しい人だな、全く見ず知らずの人でも、こうして私のことを助けてくれたのがとてもうれかったです。

そして私の家の周りにはたくさんの田んぼで自然がいっぱいあります。緑から黄色へ変わるいねはまるでふかふかのじゅうたんみたいです。そして、その周りの水路には青い鳥のカワセミが飛んでいます。桜が開花している時は、香取市のいろいろな所がピンク色になって、とてもキレイです。山のほうを見ると山桜も咲いています。花びらが私の家の周りにひらひらとまい落ちて、とてもキレイです。

そして四年生の時、社会の授業の歴史の勉強で伊能忠敬記念館に行って、伊能忠敬はすごい人だと知りました。そして私は友達に

「こんなにすごい人がいたなんてすごいね」といっしょに話しました。日本中を歩いて今の地図をつくったなんて、香取市の誇りだなと思いました。

また私は張り子のだるまの絵つけをしたことがあります。世界に一つしかない自分のだるまは、とてもかわいく見えました。その時に香取市には昔から張り子のお店があったと教えてくれました。ここで作られた張り子は年賀切手になったこともあると聞いて、私はとてもビックリしました。文化や自然、歴史、そして優しい市民がいっぱいの香取市に生まれて、本当によかったなと思います。

未来の香取市には、すてきな所があることを、たくさん広めて多くの人々に知ってほしいです。水辺にはほたるがたくさん飛んでほしいと思いました。お祭りのお兄さんみたいにこまっている人に声をかけられるような、優しい人がたくさんいる市、未来の市民になる赤ちゃんがたくさん生まれるといいなと思います。そして、私のしょう来の夢、助産師になって、大好きな香取市で助産師のお仕事ができるといいなと思います。

困っている人に声をかけられる優しい人、ニコニコと笑っている人、そして、動物たちが安心してくらせる自然がある香取市、私はとても大好きです。

香取市の未来について

栗源小学校 五年 間立 紘生

わたしは、香取市の未来について考えるにあたり、現ざい、香取市がかかえる問題について調べてみました。様々な問題がありますが、その中でも「少子高れい化」に注目しました。少子高れい化は日本国内で大きな問題となっていますが、香取市でも同じような事が起こっています。二〇二五年の香取市の人口は、約六万八千人ですが、二〇四〇年には、約四万九千人に減少する見こみです。さらに、子どものわり合いも減少することを知りました。このまま人口減少と少子高れい化が進むと、伝統行事の担い手不足や、農家の高れい化など様々な問題が起こると思われます。そこで、少子高れい化問題を解決するためには、移住者を増やすことが必要だと考え、三つの対さくを考えました。

一つ目は、移住したくなるように香取市のみ力を知ってもらうことが必要です。香取市の良い所は、温だんな気候とひよくな農地をいかして、米やいも類の生産や、ちく産などがさかんなところです。その他にも、佐原には、日本地図を作った伊能忠敬のきゅうたくや記念館があり、歴史を学ぶことができます。また、空港に近いので、海外旅行に行きやすいところもあります。これらの良い所を、インスタグラムなどのSNSで発信すれば良いと思います。

二つ目は、自然体験をしてもらうことです。例えば、キャンプや、しゅうかく体験をしてもらうことです。実際に体験すると、楽

しさを感じて、住んでみたいと思ってもらえるでしょう。わたしは、山田にある、たちばなふれあい公園の山の中を探検することが好きです。このような自然に囲まれた香取市を都会の人たちは好きになってくれると思います。

三つ目は移住を考えている人との交流をすることです。わたしは、家の近くにある、トロファームで、毎月行われている、「みんなの食堂」という所に時々行きます。そこでは、子どもからお年より、外国人など、色々な世代の人たちが遊びにきて交流をしています。その主さい者は、東京と栗源の二きょ点生活をしています。このような交流場所があると移住したい人と地元の人との関係も深まり、移住のきっかけになると思います。

このような対さくをすると、移住者が増え、人口減少は改ぜんで
きるのではないのでしょうか。また、ロコミなどで話題になればもっと人口が増えると思います。伝統行事に関心をもっている人なら、その活動を担ってくれる可能性もあります。農業で働きたい人がいれば農家の高れい化も改善できるかもしれません。わかい移住者が増えれば子どもの数も増えるので少子化も解決できると思います。

これらのことをすることで、香取市がより、み力ある豊かな街になると思います。今後、トロファームで移住を考えている人に出会ったら、香取市の良いところを伝えたいです。